

サモナーの異世界アカデミア

Rime casket

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

○○を犠牲にして様々なモノを呼び出す出久ちゃん♀がヒロアカを精一杯生きるお話

目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 原作前【代償なくして繁栄はない】 | |
| 人物？紹介 | 1 |
| プロローグ | 12 |
| 東「いーちゃんの運命は…私達が変わる！↑」 | 15 |
| 日常 | 18 |
| 千冬「これで私も正真正銘化物か…」 | 20 |
| 訓練 | 22 |
| 紫「子を思えない奴に『親』を名乗る資格なんてないわよ」 | 26 |
| 原作開始【胎動する者達】 | |
| 始まる原作！ | 28 |
| 吼えろ龍皇！ | 32 |
| 雄英高校入試！ | 36 |
| Halloweenに祝福を | 45 |
| 結果発表！ | 49 |
| 雄英高校で顔合わせ！ | 53 |
| クリスマスデート♪+？α？ | 55 |
| 事情説明！ | 60 |
| 個性把握テスト!! | 63 |

原作前【代償なくして繁栄はない】 人物？紹介

名前：緑谷出久

身長：164cm

体重：秘密

個性：召喚（ほとんど使わない）

主に使う技能：モンスターハンターのハンターの身体能力、オラクル細胞、仮面ライダーエボル、スキルインストール（固有スキル）

ハザードレベル：通常時↓6、2、エボルト憑依時↓測定不能

ヒーロー名：無し

特記事項：原作と違い女性で憑依転生者

今作の主人公で憑依転生者で転性者。前世ではそこそこ大きな会社を務めていたごく普通の会社員（自己暗示）。

ある日会社から帰ってそのまま寝て起きたら緑谷出久に憑依転性していたので絶叫してしまった。その後4歳の時に「召喚」の個性を発現させ更に思い悩むことになる。その後両親に内緒で個性を使った所、篠ノ之束を召喚してしまった。

その後両親を探すも見当たらず、見兼ねた束が調べた結果個性の代償として死んでしまったことが分かり愕然とした。その事もあって一時期自暴自棄になり手当り次第に召喚を行ったことがある。その結果アヌビスやクシャルダオラを呼び出してしまい、危うく街一つ：所か日本を崩壊させかねない事態に陥りかけた所で正気に戻った。その後呼び出した八雲紫とエボルトが主体となって安らぎの家「幻想郷」を立ち上げた。今現在「幻想郷」に居る子供は出久を含めて10人。中には将来ヴィランになりそうだった子や家族との折り合いが悪く自分に自信が持てない子も含まれているが、出久やシエル、永琳等が親身になって話を聞いているおかげで家族とすっかり話し合えた子もいたりするので、入居希望者も年々増えている。

本人に悪気は無いが精神が成熟しているのもあり、無意識にフェロ

モンの様なモノを撒き散らしている。フェロモン？自体には人目を引く程度の力しか無いがその性格や容姿も相まって人気があり、生徒会長に推薦されたりもした（本人は辞退したが）

感情が高まると荒々しい性格になり、更に怒りを露わにすると一人称と性格が男の頃のモノに戻る事がある（必ずでは無いが）

名前：篠ノ之束

容姿：原作のまま

個性：『カタストロフイヤー大天災』

主に使う技能：風による高速移動、炎による高熱攻撃、岩や岩盤での防御、IS

ハザードレベル：4. 8

ヒーロー名：無し

特記事項：原作よりコミュニケーション能力が上がっている

インフィニット・ストラトスで「天災」「吐き気を催す邪悪」「ラスボス」等と呼ばれる存在。出久が一番最初に呼び出した存在で、出久の事を（召喚されたモノの中では）誰よりも知っている。

無差別召喚事件までは原作通り他人に一切容赦ない性格だったが、出久に「態度改めないならまた無差別召喚して日本ぶっ壊すよ」と説得脅されてからは少しずつ他人にも関心を示すようになってきた。

個性の『大天災』は気象操作に長けた個性でその名の通り「天災」を操ることも可能。但し脳への負担がかなり強く、常人であれば5分で発狂している。だがそこは細胞レベルでのオーバースペック天災科学者である為、常人よりは長く使い続けられる。

ISの改良にも余念がなく、男女共に使えるように日々改良を重ねており、出久が雄英高校に入学すると同時に完成した。その後出久の個性を調べていく内に代償が寿命な事はもちろんだが、その他にも大きな副次効果があることを突き止めた

名前：織斑千冬

容姿：原作のまま

個性：『戦乙女』
ブリュンヒルデ

主に使う技能：高い身体能力を活かしたアクロバット、刀剣による斬撃、個性による空中戦

ハザードレベル：5・0

ヒーロー名：天使ヒーロー『フレイヤ』

特記事項：原作よりも柔らかい雰囲気

インフィニット・ストラトスで「世界最強」「ブリュンヒルデ」などと呼ばれる存在。

出久が束にお願いされて2番目に呼び出した存在で、出久の姉的な立ち位置。

最初こそ懐疑的な態度だったが束に事情を聞いた結果、自身と似て非なる状況であることを知り、暴走しない様に監視を始める。のだが：監視をしている内に本当の妹の様に可愛がり始めてしまい、今では監視と称して保護者会等にも参加するほどのシスコンに

名前：エボルト

容姿：仮面ライダービルドの石動惣一

個性：『ネビュラガス』

主に使う技能：ガス状になったの移動、仮面ライダーエボルphase 1 (状況に応じてphaseを変え)

ハザードレベル：測定不能

ヒーロー名：無し

特記事項：地球を破壊しようとはしていないが、出久に害を成すなら星ごと滅ぼす位の危険性がある。

仮面ライダービルドでブラックホールを操り星を破壊していた地球外生命体。出久が3番目に呼び出した存在で呼び出した中で特に危険度が高い。

呼び出された当初は勝手に呼び出した拳句元の世界に戻れないので星ごと滅ぼしてしまおうとしたが、何故か出久や出久が呼び出したモノに攻撃が出来ない為その内諦めて出久達を観察し始めた。観察している内に面白くなつたのか父親代わりをする様になる

因みに束曰く「呼び出された私達は呼び出し主に危害を加えられない様に誓約がかけられているんだと思う」との事。ネビュラガスは異能持ち「人間」や妖怪などには効果が出にくく、天使や龍と言ったポピュラーな幻想生物や普通の人間は早熟する様である。神にはそもそも効かない

ハザードレベルの上がり易さ

「普通」の人間↓早熟

「異能」もちの人間↓晩成

妖怪↓やや晩成

怪物↓やや晩成

神↓無効

龍↓早熟

名前：門矢士

容姿：原作のまま

個性：『仮面ライダー』

主に使う技能：ディケイドや他ライダー（クウガくジオウまでのメインライダー他サブライダーも込み）

ハザードレベル：6・8

ヒーロー名：ライダーヒーロー『ディケイド』

特記事項：特になし

ナルシストで自信家な仮面ライダーで出久が4番目に呼び出した存在。

ジオウ最終回後の世界線から呼び出されたので、オーマジオウにもなれてしまう真正銘の化物ライダー

出久は手のかかる妹として見ている反面、仮面ライダーとしての心構えは及第点。戦闘能力はまだまだひよっこだと判断しており、今でもたまたま稽古をつけているが、めきめき上達しており、若干危機感を募らせている。

名前：八雲紫

容姿：原作とは違っておっとりしており、髪をポニーテールにしている

個性：『境界』

主に使う技能：家事能力、境界を弄つての空間切断及び防御

ハザードレベル：4・3

ヒーロー名：境界ヒーロー『マヨヒガ』

特記事項：胡散臭さが薄れ母性が強めになっている

原作では胡散臭い妖怪の賢者で幻想郷の創造者。出久が5番目に呼び出した存在。でエボルト、アヌビスに並ぶ強さを持つ。

出久が召喚の際に母親を思い出していたせいか、母性が強くなっており、おっとりした似ても似つかない性格になってしまった。

出久の現状を聞き「安らぎの家『幻想郷』」を立ち上げ、更には束と協力して出久の母親になったりと意外とアグレッシブに動く。

普段はおっとりとしているが、1度怒るとエボルトですら縮こまる程の怖さを発揮し、男勝りな乱暴口調と言葉遣いになる

名前：八意永琳

容姿：原作のまま

個性：『製薬』

主に使う技能：医師、薬師、薬剤師、IS

ハザードレベル：2・4

ヒーロー名：医療ヒーロー『えーりん』

特記事項：特になし

原作で「月の頭脳」「マッドサイエンティスト」等と呼ばれる存在。出久が6番目に呼び出した存在でもあり、緑谷家の頼れるお医者様。偶に変な薬を作ってエボルトに飲ませたりしている

名前：シエル・アランソン

容姿：原作よりも少し幼い（出久と同じ年）

個性：『オラクル細胞』

主に使う技能：短剣二刀流による素早い連続攻撃、スナイパーライ

フルによる正確無比な射撃

ハザードレベル：4・3

ヒーロー名：無し

特記事項：原作より幼い為色々成長中

原作で主人公の右腕として大活躍したブラッドの副隊長で出久が7番目に呼び出した存在。

原作でシエルの血の力『直覚』に助けられたブラッド隊長は作者だけではないはず。

その容姿もまさに『ボンキュツボン』を体現したような容姿で人気を博した。

出久に呼び出されて直ぐに腕輪が外れてしまい、アラガミ化すると思われたが、そんな事はなく、自身の中に存在するオラクル細胞を支配下においた事が感覚で分かったそう。

それからはオラクル細胞の研究を束と共同で行い、AGEとしての能力も身につけたが、ヒロアカ世界では「灰嵐」が起こらないので宝の持ち腐れ状態。今は出久と同じ学校に通っており、元の世界には無かったモノを見聞きして毎日が楽しい様子。

名前：アヌビス？

容姿：白いアヌビス

個性：『冥府^{アヌビス}の神』

主に使う技能：オラクルによる侵食攻撃

ハザードレベル：なし（体全てがオラクル細胞なのでネビュラガスを食い尽くしてしまう為）

ヒーロー名：無し

特記事項：色が白メインになっている

ゴッドイーター3のメインアラガミである『冥府の神』

捕食行動によって二足歩行に移行後、オラクルの雨で攻撃したり、爪を伸ばして斬り裂くなどの攻撃を行う。

召喚した当時は普通の配色だったが、1年経つと何故か白くなっていた上に強さも上がっていたので出久は混乱した

東曰く「今までのが『全て喰らい尽くす』だとしたらこの子は『選んで喰らう』オラクル細胞に書き変わってるからその応用なんじゃないかな？」との事だが、詳しい事はまだまだ謎のまま

因みに出久が10番目に呼び出した存在

名前：リオレウス？

容姿：赫紫色のリオレウス

個性：『飛竜』

主に使う技能：翼による空中戦、ブレスによる赫炎攻撃、脚の毒爪による「劇毒」攻撃

ハザードレベル：3・2

ヒーロー名：ドラゴンヒーロー『リオレウス』

特記事項：赫紫色になっている

モンスターハンターと言えばコイツ！と言うくらい有名なモンスターで出久が8番目に呼び出した存在。

通常のリオレウスは真っ赤な甲殻が特徴なのだが、このリオレウスは赤は赤でも「赫」と称するほどの鮮やかさと紫色の毒々しい色が混在している。

これは召喚の際に生じたエネルギーがリオレウスを強化したと考えられており、炎と毒の強さが何倍にも上昇している。

出久や出久が呼び出した人間以外の人間を見下しており、呼びかけられてもなんの反応も示さない

名前：クシャルダオラ??

容姿：青白いクシャルダオラ

個性：『金剛龍』

主に使う技能：風による風圧攻撃、翼による飛行及び防御

ハザードレベル：5・6

ヒーロー名：ダイアモンドヒーロー『クシャルダオラ』

特記事項：ダイアモンドの様に美しい光沢を放っている

モンスターハンター2 (d o s) から登場した古龍種で出久が9番

目に呼び出した存在。

リオレウスなどが『竜』であったのに対し、古龍種は総じて『龍』と付く程に強力な存在

リオレウスと同じ様に召喚の際に生じたエネルギーが強化に使われ、元々の状態ですら鋼のように硬かったにも関わらず更に強化されたダイヤモンドの様に硬くなった。

名前：茅場晶彦

容姿：原作のまま

個性：『天才』
ジーニアス

主に使う技能：頭脳労働

ハザードレベル：1.0

ヒーロー名：なし

特記事項：原作よりも狂氣的ではない

出久が11番目に呼び出した存在で個性を公に使えない現状を少しでも改善したいと思えた結果茅場晶彦が作り上げた「VR技術」に目をつけた。そのまま呼び出すと大変なので八雲紫の時に立証された想いによってある程度呼び出した存在の性格等を変えられる力を使い呼び出し、呼び出した後熱心に説明をして一生懸命頼み込んだ事でVR技術を使った『個性練習シミュレータ』を開発し、ナーヴギア……ではなくナーヴスフィアと呼ばれるアミューズフィアの機能にナーヴギアの映像のリアリティを加えた新型機と同時に発表。発売して爆発的な人気を博した束とは別ベクトルでの天才であり、意外と一般人気が高い

名前：玉藻の前

容姿：東方Projectの藍しやまを紅くした容姿

個性：『百鬼夜行』

主に使う技能：妖怪を自身に憑依させてその妖怪の特徴に合わせた能力

ハザードレベル：6.8

ヒーロー名：なし

特記事項：東方Projectの藍しやまに似ているが出典が東方Projectではなくほぼ完全にオリジナルのキャラ

出久が12番目に呼び出した存在で出久が前世で見えていたとある動画を参考にして呼び出した存在で「妖艶な大人の女性」を体現したような存在

名前：リムル・テンペスト

容姿：スライム

個性：『アルティメットスライム竜魔粘性星神体』

主に使う技能：人化、刀術、捕食

ハザードレベル：4.0

ヒーロー名：なし

特記事項：特になし

ご存知伏瀬大先生の小説に登場する元人間の現スライムで男の娘なスライム。出久が13番目に呼び出した存在でエボルトに並ぶ強者。普段は縁側でスライム状態のまま日がな一日日向ぼっこしている。

名前：朝田詩乃

容姿：原作の髪を腰まで伸ばした容姿

個性：『スナイパー狙撃手』

主に使う技能：スナイパーライフルによる超長距離射撃

ハザードレベル：3.2

ヒーロー名：なし

特記事項：部屋にぬいぐるみが沢山置いてある

出久が14番目に呼び出した存在で出久が「普段クールビューティなのに可愛い物に目がないとかならギャップ萌えるのになあ」と考えていたことでその通りになってしまった。個性の『スナイパー狙撃手』によってどれだけ離れた相手でも必中の射撃を行う凄腕スナイパーになった

名前：爆豪勝己

容姿：原作のまま

個性：『爆破』

主に使う技能：爆発の勢いを利用した体術や舞空術

ハザードレベル：0.3

ヒーロー名：なし

特記事項：デクの呼び名は単純に「出久」が「デク」と読めることから呼んでいるだけで、侮蔑の意味は無い

原作きつての問題児。好き嫌いが分かれるキャラでもある。今作では出久にそこまで敵対心はない。中学三年生の時に永琳と士が出久の個性の代償の話をしているのを偶然聞いてしまい、永琳たちに問い詰めその後出久が無茶をしない様に監視し始める。

名前：轟焦凍

容姿：火傷跡がない状態

個性：『半冷半熱』

主に使う技能：氷結による行動阻害、炎熱による範囲攻撃

ハザードレベル：0.7

ヒーロー名：なし

特記事項：母親に熱湯をかけられる前に「幻想郷」に来たので母親との仲は良好。若干マザコンの気質あり

「幻想郷」に預けられたことで火傷をおうことも無くすくすくと育っていったことで年頃の男の子に育っている。若干コミュ障のきらいがあるのか原作並に無口である。小さい頃から同い年にも関わらず色々と手を尽くしてくれた出久に恋心を抱いており、紫から

「男は度胸よ！出久ちゃんは人気だからうかうかしてると他の子に取られちゃうわよ？」

と発破をかけられ積極的にアプローチしている。

名前：志村転弧

容姿：原作と違いヒーローになる事を目指して日々鍛錬を重ねている

個性：『崩壊』

主に使う技能：体術と剣術

ハザードレベル：1. 3

ヒーロー名：なし

特記事項：オールフオーワンではなく出久に拾われた事でヒーローを目指す。出久と同じ学校に行かせるために出久と同一年にしてあります。

原作では死柄木弔として緑谷達の前に度々現れていた。今作ではオールフオーワンよりも先に出久に出会ったことで、ヒーローへの思いを持ち続け、個性に頼らない技術をエボルトや千冬に教えて貰っている

プロローグ

皆さんは「転生」というものをご存知だろうか？この小説を見ている方たちの大半……というかほぼ全ての人はその手の小説は腐る程見してきたことと思う。

かくいう私も1年に10000回以上見ていた時期もあつた程なので「見てない」という人の方が少ないと思う。「転生」と一口に言っても様々ある。代表的なのは「神様転生」「輪廻転生」「憑依転生」etc……だろう。

転生先も剣と魔法のファンタジーな世界や2次元世界、全く同じ世界など色々ある。

さて、転生の件はここくらいまでにして、私の紹介をしよう。私の名前は緑谷出久。憑依転生者にして「転性者」だ。

まあ待つて欲しい……言いたいことは分かる。何故一般男性社会人（暗示）でしかない私が2次元の……それも主人公に憑依しているのかとか、そもそも緑谷出久は男の筈だろう！とか色々あるだろう。けど、私も1つ言いたい

私だつてこんな事になるなんて夢にも思つてなかつたよ！

転生して最初の頃は思い悩んださ。緑谷出久という主人公の立場と自我を奪ってしまった罪悪感。自分も主人公になれるのではないかという淡い期待感。2次元世界に転生という夢物語が叶った高揚感。物語の大筋を根本から破壊してしまった焦燥感と不安

それでも私はこの世界に産まれてしまった以上、この生を全うすることを誓ったのだ。それが私が緑谷出久という個人を奪^殺ってしまった私に出来る罪滅ぼしだと思うから……

さて、長々とした前置きを書いていたが今私の状況を教えよう。

「束姉！千冬姉さん！」ご飯できたから早く食べちゃって！エボルトお！士先輩！朝っぱらから地下室でスパーリングしてないでさっさとご飯食べなさい！」

今は私の個性で呼んでそのままこの世界に定住してしまった人達の朝ご飯を作ってたんだ。

え？緑谷出久は無個性だろって？そういえば言っけなかったね。私には個性があるんだ。

その名も「召喚」

：ただ、デメリットが大きすぎるんだけどね。それを補って余りある強力な個性であることは確かで、インフィニット・ストラトスの主要人物である篠ノ之束や織斑千冬、仮面ライダーシリーズの地球外生命体エボルトや門矢士がいる時点で察してもらえるとと思う。

そう、私の個性「召喚」は世界の壁を超えて様々なモノを呼び出してしまふんだ。前に1度個性の暴走でアヌビスとクシャルダオラを呼び出してしまった時は本気で焦ったよ。幸い？召喚者の命令には忠実מידいだから大きな被害は無かったけど……ね。

これは使い方次第では世界を破壊できてしまう私が^{最低}最高^{最悪}最善の
HEROになる物語さ

……………なんてね♡

東「いーちゃんの運命は…私達が変わえる！↑」

（東side）

ハロハロ♪天才科学者の東さんだよ！私は今いーちゃんのお家に居候してるんだ♪

なんで私がこの世界にいたって？そりゃあ勿論いーちゃんに「喚ばれた」からだよ？

まあ、最初こそ勝手に呼び出されて気に食わなかったから殺してやろうかとも思ったけど、そうはしなかったんだよね。

なんでしなかったのかって？そんなの自分の足元に魔法陣があったら科学者たる東さんは研究したくなるよね！しかもそれを出したのがいーちゃんときたら東さんが興味を持つのは最早必然だね！そんな訳でいーちゃんの「個性」を調べただけど…この個性。とんでもなく厄介な物だったんだ。

先ず、いーちゃんが私を呼び出してすぐにご両親に報告しに行ったんだ。でもどれだけ探しても見つからないし、電話番号にかけても繋がらない。家にいるのは間違いないのに全く見つからない…

怪しんだいーちゃんがご両親の知り合いに電話して聞いたらその知り合いがこう言ったんだ

「君のご両親？おかしな事を言うね。忘れちゃったのかい？君のご両親は…その…」

事故に巻き込まれて2年前に死んでしまったんだよ…？」

それを聞きたいーちゃんは当然呆然としてたよ。たまたま近くで聞いてた私も最初はいーちゃんがご両親が死んでいると思いたくなくて両親が居ると言っていたのかと思っただけど、私謹製の記憶読み取り機を使ってみると確かに個性を使う10分前にも会話しているから居ないなんてことは無い筈だったんだ。

その後いーちゃんの個性について調べただけどころでもないことが分かったんだ。いーちゃんの個性は確かに世界の壁を超えて様々なモノを呼び出せるけど、その代償として「自分の寿命」か「自分により近い他人の寿命」を使用するんだ。私を呼び出した時は自分の寿命を使用するとは考えてなかったからよりいーちゃんに近しい他人の寿命……つまり両親の寿命の全てを使って喚び出した事になるんだ。

そしてその場合、不都合の起きない程度に歴史が書き換わることも分かった。つまり、いーちゃんのご両親は2年前に死ぬような事故に巻き込まれかけたことがあって、その時は何とか巻き込まれなかったけど

歴史の改変によってそのまま事故に巻き込まれて亡くなってしまったという未来に変わったんだと思う。

それ以来いーちゃんは個性を使う時は必ず自分の寿命を代償にするようにしたんだ。いーちゃんの寿命は個性の発現に伴って大幅に増えているから、仮に100年使い続けたとしても寿命が尽きることは無いと分かったんだ。

因みに今いーちゃんが個性を使っている喚んだのは私

ちーちゃん（織斑千冬）

エボルト

つつくん（門矢士）

ゆかりん（八雲紫）

えーりん（八意永琳）

アヌビス（アラガミ）

しーちゃん（シエル・アランソン）

クシャルダオラ（鋼龍）

リオレウス（火竜）

の10人（？）で消費した寿命は……おっと、これは言わない方がいいかな。

ともかく、まあこれだけの存在を呼び出してるからなのか、いー

ちゃんは自分の命を軽く見ているきらいがあるんだ。何とかしてあげたいけど、私が言つて聞くような子じゃ無いしなあ…

何とかして代償を無くせないか。無くせないにしても軽くできないか…今の所私はそっちをメインに研究してるかな。

この事は他のメンバーにも話してあるからそれぞれ独自に動いてるみたい

いーちゃん待っててね。東さん達が絶対助けてあげるから…!

日常

↳出久side↳

やあ皆。緑谷出久です。前は私の個性の紹介だけで終わってしまったから今回は私の今の現状を伝えていこうと思う。

「97……………98……………99……………100……！ふう……朝の日課終わり！」

私は朝起きると顔を洗って朝食を作ったあと、歯を磨いて腹筋と背筋。それから柔軟体操をそれぞれ100回1セット行うんだ

そしてシャワーを浴びてさっぱりしたら束姉さんや紫お義母さんとエボルトお義父さんに挨拶してからシエルちゃんと一緒に中学校に行く

中学校には永琳お姉ちゃんや土先生も一緒に行くんだけど、その時は普段は歩くんだけど、毎週月曜日だけはリオレウスとクシャルダオラ、アヌビスに乗って登校する様にしてるんだ

そうしないと3匹がキレて暴れだしちゃうからね。

で、学校に着いたんだけど……

「おいデク！お前またあの3匹に乗ってきたな!?ちゃんと手懐けとけよ！危うく俺焼き殺される所だったんだぞ！」

「あ、勝己くん。そんな事言われても……基本勝己くん以外には大人しいからなんとも言えないよ……」

そもそもあの3匹が勝己くんを嫌うのは勝己くんが前に個性を使って挑みかかったからじゃない。彼我の実力差を測れないのはヒーローにとっては致命的だよ？」

この通り、幼馴染みの爆豪勝己くんに絡まれる事が多いんだ……まあ、個性がある事と世界の壁を超えて様々なモノを召喚するって言う規格外な効果のせいで見下されてはいないけど、召喚したものに頼らないと何も出来ない軟弱者って印象があるみたい。とは言っても、私の個性って召喚したモノに応じて私に能力が追加されることがあるみたいで、今の所モンスターハンターのハンターの身体能力とオラクル細胞、仮面ライダーの力も持つてるから正直勝己くん1人くら

いならワンパン出来るんだよね。まあ、仮面ライダーの力は使えてもノーマルフォームを30分だけだし、身体能力も強化され過ぎて調整が難しいんだけどね……下手したら勝己くんが潰れた柘榴みたいになっちやうし…

「んなこた分かってんだよ！ただ彼奴ら見るとどうしても戦いたくないだから仕方ないだろ!」

「あんたは何処のハンターだ……」

「どうでもいいけど貴方たち……このままだと遅刻よ?」

「へ?」

永琳お姉ちゃんに言われて時計を見ると授業開始10分前だった。担任の先生は時間に厳しいから早く行かないと反省文を書かされる……しかもやたら厳しいからなかなか解放されないし……ってこんなこと考えてる場合じゃない!

「わああああああああ!!遅刻しちやうううう!」

「ちよ!?待てやデク。てか何だその身体能力!」

遅刻して反省文は嫌なので身体能力をフルに活かして教室に滑り込む

「セーフ!間に合った……」

その後結局勝己くんは間に合わなくて反省文を書かされてたけど……

千冬「これで私も正真正銘化物か…」

↳千冬side↳

諸君、はじめまして私だ。織斑千冬だ。今回は私の「個性」について話そうと思う。なに？そんなことより出久を出せだど？

……ほう。私を前に随分と剛毅な態度だな？出久を出して欲しければ私を倒してみろ。

………なんていうのは冗談だ。さて、諸君らの中には私が「個性」を持っていることに疑問を抱く者も居るだろう。これには仮説がある。それは出久に呼び出されたことが原因だと束は推測している。この世界は「個性」と呼ばれるものが常態化している世界だ。「個性」と銘打ってはいるがそれらは云わば超能力と同じと言っている。純然な身体能力強化の個性であればまだ幾らか対処のしようはあるが、火を噴いたり、動物の力を人間サイズで使ったりすればなんの力も持たないままでは私達は直ぐに死んでしまう可能性がある。

そうならない為に本人の本質に基づいた「個性」がこの世界に来ると同時に発露し、知覚することが出来る。

例えば私であれば『戦乙女』ブリュンヒルデ

束なら『大天災』カラストロフイー

エボルトなら『ネビュラガス』

と言った具合にな

そして私の「戦乙女」ブリュンヒルデは発動型の個性であり、その効果と云うのが使うと出久から教えて貰った…

アマツマガツチ？の剣士装備？に胸や関節部に束曰く地球上に存在しない筈のアダマンタイト？で造られたと思しき黒銀色のアーマーが取り付けられ、更に背中から全長1m程の純白の翼が4対8枚顕れると云うものだ。最初に見た時は白騎士と一夏の白式を掛け合わせてドレスアーマーにした様なものだと感じたな。しかも翼は個別に動かせるだけでなくISのウイングスラスターの代わりに異なる様で「個別連続瞬時加速」リボルバー・イグニッション・ブーストや「稲妻軌道動作」ライトニング・アクシオンだけでなく、その派生先である「多重個別連続瞬時加速」マルチ・リボルバー・イグニッション・ブースト「雷光軌道動作」サンダー・アクシオンにも耐えら

れる上にかかる負荷を軽減してくれるとあつて更に上へと登れる様になった。

そしてこの個性の最も大きな特徴として「魔力」が宿った事だろうな。実は負荷を軽減しているのもこの魔力が障壁を張っているからだと推測される。

更に魔力を使い零落白夜を擬似的に再現することも出来る。この場合絶対防御を斬り裂くのでは無く、個性を発現させる「個性因子」の活動を停止させる様で、完全に個性を消して普通の人に戻してしまう恐ろしい効果があると分かった

元の世界でもそうだが、私には強すぎる力や能力が纏わり付くらしい……

普通の人として生きていたんだがな……

訓練

やあ皆。私だ…緑谷出久だよ

今回は私のトレーニング風景を見せようかと思う。

なに？さつきと原作に行けって？まあ、待ってくれ、アヌビスやリオレウスは兎も角、紫お義母さんやシエルの紹介もしてからでないといきなり原作が始まって「なにこれ？」ってなってしまうだろう？だからもう少し待ってくれないかな？

…：ありがとう。じゃあ早速だけど私が筋トレを毎日してるのはご存知のことと思う。今日は土日にやってるライダーとしての戦闘訓練及びオラクル細胞制御訓練。エボルト憑依時の身体制御の3つを紹介するね。

Training 1：ライダーとしての戦闘訓練

「それじゃ士先輩。よろしくお願いします！」

「分かった。行くぞ」

【KAMEN RIDE】

「変身」

【DECADE】

っ…。やっぱり士先輩の圧力が凄い…！でも、俺だって負けてられないんだ！そして俺は歯車と2つの窪みのある黒と赤、銀の配色で彩られたドライバー『ビルドドライバー』を取り出し、兎の模様の描かれた赤いボトルラビットフルボトルと戦車の模様が描かれた青いボトルタンクフルボトルを取り出して数回振ったあとビルドドライバーの窪みに装填する。

【Rabbit】

【Tank】

【BEST MATCH】

その後ドライバーに付いてる手回しハンドルを数回回してプラモ

デルのランナーの様な物が形成されると、そこには赤と青のハーフボ
デイが出来上がり、そして自身を変化させる言葉を唱える

【Are you ready?】

「行きます…！変身！」

【FULL METAL MOON SALT】

【Rabbit Tank】

【YEAHHH!】

変身が完了すると俺は愛と平和を守るために戦ったヒーロー『仮面
ライダービルド』になる。この形態でもかなり負荷が強くて30分し
か持たないけど、それでも士先輩を納得させるだけの戦闘能力を見せ
ないといけないからかなり厳しいんだよな……

Training 2：オラクル細胞制御訓練

「じゃあお願いします。シエル先輩」

「はい。それではまずは復習としてオラクル細胞とは何かを暗唱して
下さい」

「はい。まず、オラクル細胞が操る力、オラクルとは何かという事です
が、束さんやシエル先輩の考察を元にオラクル細胞及びその群体であ
るアラガミの目的は地球の再生であると考えられます。そしてそれ
は地球の意志であるとも言えます。

しかしここでは、オラクル細胞の目的の根底は人類全体の意思によ
るものと考えられます。

人類共通の目的は、地球に太陽光などによって与えられるエネル
ギーを取り出し、熱として発散するのを防ぎ他のエネルギー形態に変
換する事、そしてその変換効率を上昇させる事にありそれ即ち、人類
共通の目的は、エントロピーの減少であり、エネルギー利用の効率化
であるという考察が出来上がります。

そしてオラクル細胞は、その地球上の人類全て共通の潜在的願いを
体現した物であると推測され、そして効率化の究極とは、地球そのも

のが1つの生物、ないしはシステムとして完結する事であり、それが終末捕喰に繋がるのでは？と考えられます。

以上を前提にして考えると、オラクル細胞の特徴的能力は、指向性を持つエネルギー形態の変換及びエネルギーの操作であり、それをスムーズにするため、エネルギー形態：熱、光、電気のようなものに新たにオラクルエネルギーという形態を追加する。これは高いエネルギー密度を持つ半流体蛍光物質であり、これを以後便宜上オラクル流体と呼称します。

これらは即ち、ハンニバル神族のように熱を一点に集めて放出したり、逆に極地適応型個体のように冷気を一点に集めたり、さらにはヴァジュラ神族のように物質を帯電させたりする事を可能にする事であり、結合崩壊時の蛍光はアラガミ体内をエネルギー放出のため流動するオラクル流体であると説明できます。

まあ、物凄くざっくり言うところ『考えて、喰らう細胞』です」

「はい。その通りですね。では、オラクル細胞を制御するのに必要なものは何だと考えますか？」

「はい。恐らくですが…『対話』かと」

「ほう…その理由は？」

「考えて喰らうという事はオラクル細胞にも『意思』があると思います。でなければ『血の力』なんて発現しないでしょうし、あれだけ多種多様な進化も果たさない筈です。ということはつまり、私達が歩み寄り互いに分かり合えばもっとより良い関係が築けると考えます。

まあ、素人考えなんですけど…」

「そうですね。ではその『対話』を成功させるために今日も頑張りますよ」

「はい…」

Training3：エボルト憑依時の身体制御

「じゃあエボルト。やるよ」

「せいぜい頑張ってくれよ？」

そういつてエボルトは私の体に憑依する。そうすると目は紅くなり、髪は白くなる。その後エボルトが私の体を動かして部屋を歩き回るから、私はそのエボルトから体の支配権を奪い返すのが目的……なんだけど、これが中々難しいんだよね。ビルドの石動惣一もほとんど体の支配権を奪い返せてなかったし。

『うくつ…グウウウ…！』

「どうしたどうした？そんなんじやいつまで経っても奪い返せないぞお？」

『わかっ……てる、よ！』

何でこんなに必死かと言うと、早く奪い返さないと「幻想郷」にいる轟君やトガちゃんにセクハラしに行くだけじゃなく、勝己君を誘惑しだすから恥ずかしくて堪らないの…

「くく…ほらほら、早くしないとまた轟に素っ裸で迫りに行くぞ？」

『ちよ!?／／／そ、それは止めて！』

最近私の体の発育がよくなりだしてから轟君は積極的にアピールしてくるしトガちゃんは虚ろな目で私の胸を見てくるから罪悪感やら羞恥心が半端ないのよ！

『ぐぬぬ……だあ！よっしや奪い返したったぞコンニヤロー！』

あともう少して幻想郷に着いてしまうという所で無事支配権を奪い返す事に成功したからよかったものの、このまま幻想郷に入ったらもう轟君達に合わせる顔が無い……

『くく…よくやったな。これからも精進しろよ？』

そんなこんなで私の土日はエボルトとの訓練が終わるとクタクタになるんだよ…

エボルトはホントに頼むから止めて欲しい。切実に

紫「子を思えない奴に『親』を名乗る資格なんてないわよ」

（紫side）

ん？おー？あらく？私の番かしら？そうなの？……こほん

初めまして、画面の前の皆、私は八雲紫よ。今回は私がやってる「幻想郷」について説明するわね？

「幻想郷」は私がエボルト、束ちゃんと一緒に立ち上げた施設で、孤児や家庭環境に問題があつて将来的にヴィランになりそうな子を優先的に保護しているの。最初に立ち上げた時は出久ちゃんを除けば轟冬美さんからのお願いで預かった轟焦凍君。ご両親が気味が悪いと預けに来た渡我被身子ちゃん。出久君が買い物途中で出会った未来に絶望しかけていた志村転弧君の3人だけだったんだけど出久ちゃんや永琳。束ちゃんやシエルちゃんが積極的に関わることで明るい性格になっていったから、このままいけばヴィランになることもないと思うわ。

焦凍君に関しては今もヒーローランキング「No. 3」の炎司が何度も引取りに来てるけどね。まあ、いい加減鬱陶しいからrゲフンゲフン：お灸を据えようかと思ってる所だけどね。

「マヨヒガア！いい加減焦凍を返せ！」

「だから何度も言ってるでしょ？貴方の家に返したらせつかく出来た友達と遊べないし、価値観が歪んでヴィランになっちゃう可能性の方が高いのよ。」

「そんなことにはならん！そもそもヴィランに堕ちるなど心が軟弱な証拠だ！焦凍にはいずれオールマイトを超えて貰わねばならん！この様な場所で怠けている暇などない！」

「焦凍君がオールマイトを超えるかどうかはあの子個人が決めることよ。貴方が決めていいことじゃないわ。」

「焦凍は俺の最高傑作だ！彼奴にはその使命が「いい加減にしるよ？

小僧」：「っ!？」

ダメだ…もう我慢できない……!言葉が乱暴になるけど、此奴には言っておかないと気が済まない!

「さっきから黙って聞いてりゃオールマイトオールマイトうるせえんだよ。同じ言葉しか囁れねえオウムかてめえは。」

そんなにオールマイトを超えたいなら自分でやれ。自分が出来ないからって子供に押し付けてんじやねえよ。

挙句の果てには自分の子供に対して最高傑作だと?てめえそれも人の親か?子供は物じやねえんだよ。血い通ってんだよ!てめえが腹痛めて産んだ訳でもねえ!子育てを率先してやったでもねえ!それで子供に個性が発現すればいきなり父親だあ?!

なめてんのか!それで子供の意見も聞かずやれ特訓だの遊びは禁止だのお前はオールマイトを超えろだの…終いには子供に対して最高傑作だと?それでも親かゴラア!てめえには親と名乗る資格は無^ねえし、焦凍と会う資格も無い!焦凍は家で預かって育てる!これは冷や冬美にも了承を得ているし、冷達の方から焦凍にも説明がしてある!てめえが変わらない限り二度と焦凍には会わせん!」

「なっ…き、貴様あ!」

言うだけ言ったらエンデヴアーの馬鹿がキレて襲いかかってきた。こんなんだからN.O. 3のままなんだよ…

「お前はもう幻想郷に入れないよ…ブラックリストに入ってしまったからな。自分を見つめ直してこい青二才が」

そう言って私はスキマを開いて馬鹿を吸い込み馬鹿の自宅の庭に強制転移させた。スキマを閉じると1回深呼吸して心を落ち着かせる

……よし。これでOK

「全く…あんなのがN.O. 3だなんて…世も末ね」

原作開始【胎動する者達】 始まる原作！

ファイジョーシイ
やあ皆。私だ、緑谷出久だよ。

学生の皆は進路つてもう決めたかな？前回から約2年ほど経って今の私は中学3年生……進路を決める時期なんだけど、雄英高校に行くか否か迷ってるんだ。原作を知っている身としては行きたい欲と行きたくない欲が丁度半々と言った所かな？雄英高校で八百万百ちゃんや蛙吹梅雨ちゃんに会いたい気持ちもある反面、ヴィラン連合による襲撃なんかもあるから行きたくないって気持ちもある……。それにこの2年の間に結構変わった所もあるんだよね。

1つは勝己君……ううん。かっちゃんに私の個性の代償がバレちゃってかっちゃんがやたら私を気にかけてくれる事。代償がバレてからは口癖の様に「お前は個性を使うな」って言うてくるけどね。

1つはハザードレベルが5・0を超えた事でエボルドライバーを使えるようになったこと。これに関しては驚く程負担が少なくて、疑問だったんだけど、エボルトが私専用チューニングしてくれたみたい。

1つは中学2年の春休みの時に個性を使って呼び出した3人と一体、3振りの刀剣と2丁の銃を呼び出したことが原因なのか……思考がほぼほぼ女性寄りになった事

主にこの3つかな？因みにかっちゃん呼びの原因はなんとなくしか言えないけどね

「おうデク。進路決めたのか」

「あ、かっちゃん。うーん……雄英高校にしようかどうか悩んでるところかな」

「個性は使うなよ？お前はただでさえ自分の体に頓着しねえからな。ちったあ自分の容姿がいいことを自覚しろクソデク」

「酷くない？」

「るせえ。自覚無しの誘惑に耐えてる俺や焦凍のこと少しは考えろ」

「誘惑なんてしてないよ!？」

こんな感じで気にかけてはくれるけど持ち前の口の悪さからか、かなり辛辣な言葉がちよくちよく出る

「とりあえず雄英高校で出してくるよ。雄英に入ったらかっちゃんには負けないから!」

「もう受かった気でいるのかよ…油断して足元をすくわれんなよ?」

「分かってるよ。じゃあ私買い物があるからまた明日ね。かっちゃん」

「おう。」

そんな訳でかっちゃんと校門で別れて晩御飯の買い物の為にスパーに向かっているんだけど…さつきから嫌な予感がするんだよね…。何かあつたつけ…?

「Mサイズの隠れ蓑オ…」

「っ!」【エボルドライバー】

そうか…!今日は原作で出久とオールマイトの出会い日…!

「避けるなよお…大丈夫。体に乗っ取るだけさ落ち着いて。」

苦しいのは約45秒…すぐ楽になるさあ…」

「知ってるよ!その約45秒が物凄くキツいつて事でしょ!」

オールマイトが処理するのは分かっているけど、いつ来るかは分からない以上当てにならない!なら今ここで私が無力化するしか無い!

そして私はコブラの意匠が施されたボトル『コブラエボルボトル』と歯車の意匠が施されたボトル『ライダーシステムエボルボトル』を取り出しエボルドライバーに装填する

【Cobra】

【RiderSystem】

【Evolution!】

そしてクラシックの様な厳かであり、どこか恐怖を誘うような変身待機音が鳴り響く

【Are you ready?】

「変身!」

【COBRA………COBRA………EVOLCOBRA!フツハツハツハツハ!】

【EVOL……Phase1】

「仮面ライダーエボル…変身完了。さあ私がお前を愛^壊してやろう…!」

嗚呼…エボルに変身するといつも気持ちが高揚してしまう…さあ、存分に愛^壊しあおうじゃないか!

「な、なんなんだ君は!」

「名乗つただろう?エボルだよ」

「し、所詮は鎧を纏うだけの個性!俺の敵ではない!」

そういつてヘドロヴィランは私に纏わり付く。やれやれ…相手の力量も測れないとはなあ…

「ハハハハハ!君は俺のヒーローだよ。まさかあんなのがこの街にいるなんて思わなかったからね…君のおかげで俺は逃げられる!」

ふむ…45秒待ってやってもいいが…纏わりつかれるのは気持ち悪いし…引き剥がすか。

そう思った私はヘドロヴィランの腕?を掴む

「掴めるわけないだろ流動的なんだから!!さあ、あと30…ぐあ!」

ヘドロヴィランがごちゃごちゃ言ってるがそのまま引つpegして電柱に叩き付ける。ネビュラガスの特性なのか、エボルの状態で触れると触れた部分だけではあるが、個性を無力化できることが分かった。まあ、仮に掴めなかったとしてもガス状になれば良かったのだけどね…。

「な、何故掴める!?君の個性はその鎧だろう!」

ヘドロヴィランがギャーギャー喚いているが私はそれに構わずレバーを回す。そうすると私の足元に星座早見盤のような模様が現れ、それがぐちゃぐちゃに混ぜられていき私の足に集中する。

吼えろ龍皇！

…やあ皆。緑谷出久だよ。前は私がヘドロヴィランを倒したところでオールマイトが来て微妙な空気になっちゃったね。まあ…今もなお微妙な空気なだけ…まあ、変身は解いておこうかな

変身を解く同時にオールマイトが話しかけてきた。

「え……と。その少女？ヘドロ状になるヴィランをこの辺りで見なかったかな？」

「……それならそこで気絶してますよ。」

指さす先にはのびて気絶しているヘドロヴィランがいた。加減したとはいえエボルの必殺技喰らって気絶だけで済むとか耐久性凄いな……いや、流動体だから威力が分散されたのか…？

「おお！感謝するよ！え〜と……」

「出久。緑谷出久です」

「感謝するよ緑谷少女！いやーいつもならこんなハマはしないんだけど、オフだったことと慣れない土地で浮かれちゃったかな？H A H A H A H A！つと、そういうええさつき纏っていた鎧は君の個性かい？」
「……いえ。私の個性は代償が大きすぎるので個性を使わない為と自衛の為の変身道具です」

「変身!?じゃ、じゃあ君は『仮面ライダー』って知ってるかい?!私が産まれるより前に放送されていた特撮番組なんだけどね!そこに出てくる『仮面ライダー』が正しく君のあの姿と似通っているのさ!」

「知ってますよ。というか、あれも仮面ライダーの1つですよ『仮面ライダーエボル』……まあラスボスライダーですけど」

「ラスボスライダー!?という事はスペックも相当高いのかい?!」

「エボルに変身するエボルト自体がブラックホールを操る地球外生命体なのでお察しのレベルですね」

「……っ!!」

オールマイト:仮面ライダー好きなのかな?まあ男の子だったら1度はスーパー戦隊や仮面ライダーは見るだろうし、おかしくは無いか…て言うか

「オールマイト。ヘドロヴィラン捕まえてなくて良いんですか？」

「Shit! 忘れるところだったよ! 早く捕まえないとね!」

「しっかりしてくださいNo. 1ヒーロー……。私は買い物があるのでこれで失礼します。」

~~~~~

「さて、買うもの買ったし帰るか……」

今日の夕飯と明日の朝ごはんの食材を買い終えて私は帰路についてた。そして商店街の前に差し掛かった時人集りが出来ているのが見えた

「……まさか!」

私は嫌な予感がして人混みを掻き分けて前まで行く。

(確か原作では出久がオールマイトに掴まった事でヘドロヴィランを入れたペットボトルを落つこととして、それでそこから這い出たヘドロヴィランがかつちゃんを取り込んで暴れてた。もしそうだとしたらかなり不味い……!)

「すげー! 何アイツひよつとして大物敵!」

「頑張つてーヒーロー!!」

「私2車線以上じゃなきゃムリ〜!」

「爆炎系は私の苦手とするところ……! 今回は他に譲つてやろう!」

「そりゃサンキュー消火で手一杯だよこっちは! 消防車まだ? 状況どーなってるの!」

「ベトベトで掴めねえし良い “個性” の人質が抵抗してもがいてる! おかげで地雷原だ。三重で手エ出し辛え状況!!」

「おおおおオオオオオオオオオ」オ」オ」オ」オ」オ」オ」!!!」

くそ……! やっぱりそうか! かつちゃんがヘドロヴィランに取り込まれてる! 何時だ! 何時逃げ出した? オールマイトがそんなハマす

るとは思えない。となれば私と話してた間に逃げたってことか！くそ！私のせいじゃないか！とりあえずかつちゃんを助けてあのヴィランを始末する！その前に連絡して…よし！

「かつちゃん！」【エボルドライバー】

「ぬ!? アイツは！」

(デク!?)

「馬鹿ヤロー!! 止まれ!! 止まれ!!!」

「Doragon」

「RiderSystem」

「Evolution！」

「Are you ready?」

「変身！」

【DRAGON……DRAGON……EVOLDRAGON! フツハツハツハツハツ!】

【EVOL……Phase2】

「かつちゃんを離さんかこの汚物がア！」

身体能力出力30%! オラクル細胞喚起率10%! このまま始末してくれる! そしてレバーを回してヘドロヴィラン<sup>物</sup>の顔面目掛けて拳を振り抜く

【ReadyGo! EVOLTIC FINISH!】

「はっ! そんな位置から届くわけへぼう!」

【Ciao♪】

戯れ言ほざき散らしてるヘドロヴィラン<sup>物</sup>の顔面へ原作オールマイトがしたように風圧を利用した攻撃。拳圧攻撃を当ててかつちゃんを引き剥がす

「二度と私の幼馴染に近寄るな汚物が…!」

「ひっ!」

自分でも驚くほど低い声でヘドロヴィラン<sup>物</sup>に吐き捨てると変身を解除してかつちゃんに回復魔法をかける

「大丈夫? かつちゃん」

「お、おう。俺は大丈夫だけだよ…」

「君！危ないじゃないか！君が危険を冒す必要は「全くなかった…なんて言うんじゃないだろうな？」フレイヤ！」

「出久から連絡が来たから遠視を使いながら来てみたならなんだこのザマは。人質を助け出そうとするでもなく他人に押し付け合い人質の気力に頼るだど？貴様らそれでもヒーローか！今この場において最も『ヒーロー』としての資格を持っていたのは出久に他ならん！貴様ら仮にもヒーローを名乗るなら困難など跳ね除けて人質を救え愚か者ども！そして出久！いくら幼馴染がピンチとはいえ無鉄砲に飛び出すな！今回は私に連絡を入れたから良しとするが次からはもつと冷静に周りを見ろ！」

「うん…ごめんなさい。お姉ちゃん」

『お姉ちゃん!?!』

「分かったならいい。さあ、早く帰りなさい。」

「うん。今日の晩御飯はカレーだから早く帰ってきてね？あ、かつちゃんもどう？」

「……いいのか？」

「うん。幻想郷の皆も来るし、人数多いと作りがいもあるから」

「なら家帰って着替えたら行く。デクの家でいいんだよな？」

「うん。待ってるね」

千冬姉に促されて帰宅する。頭に血が上ってたとはいえ、無鉄砲に飛び出してエボルドラゴンになったのは正直やり過ぎたと思う…身体能力出力100%で近くのビルから拳圧飛ばせばもつと穩便に済んだのに……はあ…これは帰ったらメンタルトレーニングもしなきゃなあ…

## 雄英高校入試!

やあ皆1度きりの人生楽しんでるかな?どうも緑谷出久です。

今日はとうとう雄英高校の試験日!今日の為にかっちゃんやシエル、焦凍達と来る日も来る日も鍛錬に明け暮れていたんだ!まあ途中で歴史の修正力とでも言うべきかオールナイトから個性を受け継ぐイベントがあっただけど、そこは原作とほぼ変わらない感じだったから割愛するよ。違う点があるとすれば最初から身体が出来上がっていたから出力が最初から45%出せたこととかっちゃん達も一緒にゴミ掃除した事くらいかな?え?ちゃんと書けて?いやそんな事言われても…紹介したい人もいるし、ね?許して?お願い!何でもするから!

とまあそんなネタは置いて。今は朝ごはんを作ってる所なんだけどね

「ふあ……。おはよう出久、毎朝早いわね…。何か手伝うことある?」  
「おはようございませう出久。今日はとうとう雄英高校の入試ですね。お互い頑張りましょう」

「あ、シノのんとシエル。おはよう…お皿出しておいて貰える?」  
「だからシノのん呼ばないでっいつも言ってるのに…分かったわよ。」

「お皿を出したら茅場さん達を起こして来ますね。」

今起きてきたのがシエルとシノのん…本名は朝田詩乃。中学の時に呼んだ1人で個性『狙撃手』<sup>スナイパー</sup>を持つてる子で

シエルが起こしてくるって言ってた茅場さんが茅場晶彦。個性『天才』<sup>ジーニアス</sup>を持つてる人なの。2人ともSAOからの呼び出しだね。茅場さんはあの狂氣的なVR事件を起こして欲しくないからそうならないように考えて召喚したからVR事件は起きてないよ?」

「あらあら…遅れちゃったかしら?」

「あ、玉藻さん。おはようございませう」

「ええ、おはよう…」

今起きてきたのが玉藻の前さん。名前で勘違いされやすいんだけ

ど、一応オリジナルなキャラクターだよ？まあ、見た目は紅い藍しまだけどね：個性は『百鬼夜行』で妖怪を自分に憑依させてその力を使う汎用性の高い個性

この人は私が前世で見てたゆっくり実況動画に出てた人で、そこでは「妖艶な大人の女性」として描かれていたのが強く印象に残ってたなあ：まあ、「妖艶」は私個人の主観だけどね。

「ところで、リムルは何処かしら？」

「多分縁側で日向ぼっこしてると思うよ？」

「そう：ならほっときましょうか」

そして最後にリムル・テンペストさん。「転スラ」でお馴染みの主人公で男の娘なスライムだよ。個性は『アルティメットスライム竜魔粘性星神体』いつも縁側で日向ぼっこしてるかな。

とまあこんな感じです。とりあえず朝ごはんを済ませてとシエルと一緒に雄英高校に出発する。トガちゃんや転弧とは現地で落ち合う予定だから早く行かないとね。因みにシノのんは推薦入学でもう既に合格済みらしい

~~~~~

「着いた！」

「すごく……大きいです……」

「それ、ネタで言ってるの……？」

「なんの事ですか？」

「：なんでもない」

数十分歩くと私たちの前には大きな校舎が聳えたっていた。これこそが倍率300を超えるマンモス校！雄英高校！国民栄誉賞に打診されそれを固辞したオールマイトや事件解決数史上最多の凍燃焼系ヒーローエンデヴァー野郎。ベストジーニスト8年連続受賞のベストジーニストなどの偉大なヒーローには雄英高校卒業が必須条件とも言われるほどの高校（因みに千冬姉は普通の公立高校出身という事になっている）

さして、ここで落ち合う予定の筈だけど…

「出久ちやーん！こつちですよー！」

「声でけえよバカトガ」

「うっさいシスコン」

「お前ら相変わらず仲良いんだか悪いんだか分からねえやり取りしてんな…恋人同士だろ」

あ、いたいた。トガちゃんが大声で呼んでくれたお陰で見つけられたよ。まあ、視線も集めてるけど…と言うか！トガちゃんと転弧って恋人同士なの!?初耳ですが!?

「…：／／」

「なんでそこで2人して照れんだよ。」

「まあまあ。ここにいるのも仕方ないですし、早く中に入りましょう」

「そうだね。遅れたら意味ないし」

「だな。ほら、何時までも赤面してねえで行くぞバカツプル」

「バカツプルじゃない！」

そんなこんなで雄英に入っていく。出来れば全員で受かってパーティーでもやりたいね…

~~~~~

「今日は俺のライブにようこそー!!!エヴィバデイセイハイ!!!」

シーーーーーン

「こいつあシヴィー!!!受験生のリスナー！実技試験の概要をサクッとプレゼンするぜ!!ア－ユーレディ!?!」

試験の説明はやっぱりプレゼント・マイクか…。それにしてもあんなに大きい声出して喉枯れないのかな？

「入試試験は入試要項通り！リスナーにはこの後！10分間の「模擬市街地演習」を行ってもらうぜ!!持ち込みは自由！プレゼン後は指定

の演習会場へ向かってくれよな!!」

「同校同士で協力させない為…ですね。」

「だろうな。」

会場はA～Gまでの7つ。それぞれバラけることになるか…

「演習場には『仮想敵』を三種・多数配置してあり、それぞれの「攻略難易度」に応じてポイントを設定してある!!各々なりの『個性』で『仮想敵』を行動不能にしポイントを稼ぐのが君達リスナーの目的だ!!

もちろん他人への攻撃等のアンチヒーローな行為はご法度だぜ!」

「質問宜しいでしょうか?!プリントには四種の敵が記載されております!後裁であれば日本最高峰たる雄英において恥ずべき痴態!!我々受験者は規範となるヒーローのご指導を求めてこの場に座しているのです!!」

「質問していいとも言われてねえんだから座つとけやクソメガネ」

「それからその男女2人!」

ん?指さす先は…転弧とトガちゃん?...あ(察し)

「さつきからイチャイチャイチャイチャと…気が散る!物見遊山のつもりなら即刻雄英こごから去りたまえ!」

「やれやれ男の嫉妬は見苦しいですね」

確かに…質問していいと言われる前に質問するのはどうかと思うし、イチャイチャしてようが我関せずを貫けばいいのにね…。まあ、トガちゃん達もTPOは弁えるべきだけど…

「オーケーオーケー受験番号7111くん。ナイスなお便りサンキューな!四種目の敵はOP!そいつは言わばお邪魔虫さ!レトロゲーのスーパーマリオブラザーズはやった事あるか?あれのドツスンみたいなものさ!各会場に一体!所狭しと大暴れしているギミックよー!」

「なるほどー。避けて通るステージギミックつてことですね」

「…まんまゲームみてえだな。面白い…!」

「有難う御座います。失礼致しました!」

「俺からは以上だ!!最後にリスナーの諸君に我が校の『校訓』をプレゼントしよう

かの英雄ナポレオンⅡボナパルトはこう言った！

「真の英雄とは人生の不幸を乗り越えていく者」と!!

“Puls Ultra”!!

「それでは皆良き受難を!!!」

ここからが本当のヒーローの「素質」が試される場になる。気を引き締めないと

そうして試験会場に到着した私は意識を切り替える

(スキル「気配感知」発動……ふむ。多いな。まあ、楽しめればそれでいいか)

【エボルドライバー!】

私は羽織っていたジャケットの内ポケットから私がエボルトと一緒に開発した烏賊の意匠の施されたボトルクラークンエボルトとライダーシステムエボルトを取り出す。

【Kraken!】

【RiderSystem!】

【Evolution!】

【Are you ready?】

【変身】

【Kraken……Kraken……EVOLKRAKEN!フツハツハツハツハ!!】

【EVOL……Phase? ?α?】

変身完了した私はエボルドラゴンよりも水色に近い烏賊の姿を横倒しにした様な複眼を持ち、肩甲骨の辺りから新たに生えた2本の腕を握りしめ感触を確かめる。このPhase ?α?は特殊で、武器を持たないとあまり意味が無いのだ。

その為私は私自身の『個性』を発動させる

【召喚対象：ガオウ・バルグリオ。真・狼牙刀【寂滅】。アニマメモリア。業物・九十九牙丸

召喚元世界：モンスターハンター

召喚先世界：僕のヒーローアカデミア

召喚期限：生涯

代償選択：自身の寿命

召喚」

そして私の前には黄金色、赤黒色、青色の4つの魔法陣が現れそこからジンオウガ原種の太刀【ガオウ・バルグリオ】。

ジンオウガ亜種の太刀【真・狼牙刀【寂滅】】。

太古の塊から得られる鉱石素材の太刀【アニメメモリア】。

交易船の船長から譲り受けた太刀【業物・九十九牙丸】

の4つが出てくるこのうちアニメメモリア以外は既に持っていたものを此処に移させただけである。そして私は右手にガオウ、左手に狼牙刀、複製右腕にアニメ、複製左腕に九十九牙丸を持ち呼吸を整える

「お、おい…見ろよあの子！変身した上に武器召喚したぞ！」

「ど、どんな個性なんだ？」

周りが五月蠅いが集中する…。そろそろ

「ハイスタートー！」

っ！声が聞こえると同時に走り出す

「「「「「え？」」」」」」

「どうしたあ!?実践じゃカウントなんざねえんだよ!!走れ走れえ!!賽は投げられてんぞ!!既に1人走り出してるぞ!!そいつに負ける気かあ!?!」

そう言われて他の受験者達も慌てて動き出すが遅い。私は既に1Pに接敵している

「標的補足!!ブツ殺ス!!」

「お前には無理だよ」

そう言っつて私はガオウで頭を狼牙刀で首を複製碗で左右の腕らしき物を斬り落とし、膝蹴りで動力源を破壊する。その後も試験会場を駆け回りながら仮想敵を屠りつつ、怪我人の治療や危機的状況の受験者の手助けを行う。

そして5分程たった所で突然試験会場全体に地響きが起きる

「…来たか！」

上を見上げるとビルよりも高いOPの仮想敵が暴れていた。

それを見た他の受験者はやはりと言うか当然の反応をしていた

「うわあああああああああああああああああああああああ!?!」

「逃げる! あんなの学生が何とか出来る奴じゃない!」

情けない…それがヒーローを目指す奴の言うセリフか?

「いったあ…」

っ!! あれは八百万!? 何故此処に?! いやそんなことより何故近く  
の奴は何もしない? それが本当にヒーローを目指すものの態度か!!!

「逃げるなあ!」

「「「「「「「「「「「!?!?!?!?!」」」」」」」」」」」」

「何故貴様らは逃げる! それでもヒーローを目指すものの端くれか!?!  
ヒーローとは何だ! アイドルか? 俳優か? 違うだろう!! ヒーローと  
は最後まで諦めずに戦い抜き、人々の笑顔を護る存在だ!! その護るべ  
き存在を放つたらかし、自分だけが助かろうなどと言語道断!! どんな  
敵にも弱点はある! 無理に戦えとは言わん! だがどんな状況でも人  
を救うことは忘れるな!! 人を救えないヒーローなどヴィランと同じ  
だ!!」

俺は八百万の元へ急ぐ

「大丈夫か? 今助ける」

「貴方…は?」

「なに。俺もヒーローに憧れた者だよ君と同じね……。さて、少し失  
礼するよ」

「え?... きゃあ!?! / / / /」

瓦礫に足を挟まれていたので瓦礫を退かし足を怪我していたので  
そのまま抱きかかえ(お姫様抱っこ) 安全な場所まで移動する

「さて、ここまで来れば大丈夫か。歩けるか?」

「は、はい... / / / /」

「なら少し離れていてくれ。あのOPを始末する」

「え!?! む、無茶ですわ! あんな大きな仮想敵を倒すなんて!! 出来るわ  
けが「だったら諦めるか?」... え?」

「俺達は今の場において『ヒーロー』としての資質を試されている。それは分かるよな？じゃあ聞くが、オールマイトは絶望的な状況だとして諦めると思うか？思わないだろ？真に凄いヒーローはどんな絶望的な状況も簡単にひっくり返してしまう。なに、心配するな。君には絶対触れさせない」

「ッ…はい／＼／」

うーん…我ながらクサイセリフ言ってしまったなあ…まあいい。取り敢えず武器をしまいクラーケンエボルボトルを外しドラゴンエボルボトルを装填する

【Dragon】

【RiderSystem】

【Evolution】

【Are you ready?】

「変身」

【DRAGON…:…DRAGON…:…EVOLDRAGON!フツハツハツハツハ!】

【EVOL…:…Phase2】

そして身体能力50%解放。OPの頭上まで跳び上がりレバーを回す

【ReadyGo! EVOLTIC FINISH!!】

【Ciao♪】

そして青白い炎で出来た龍とともにOPの仮想敵に必殺技を叩き込み破壊する

「す、凄い…」

そして私は八百万百の元まで行き変身を解除する

「大丈夫？痛むところはない？」

「だ、大丈夫ですわ。ありがとうございます」

「そっかならよかった…。お互い合格してるといいね。」

「あ、あの！お名前を伺っても宜しいでしょうか？私は八百万百と言います」

「私は緑谷出久。どこにでもいるようなヒーロー志望だよ」

こうして無事に試験を終えた私は百（名前で呼んで欲しいと言われた）と連絡先を交換して帰宅した。

そう言えば百の顔が赤かった気がするけど……まさかね。

## Halloweenに祝福を

今日は楽しいHalloween!今回は「幻想郷」メンバーと呼び出したキャラクター達でゲームをしたいと思いまーす!  
く今回だけ台本形式となります

爆豪「おい、デク…」

出久「ん?どしたの?かっちゃん」

爆豪「俺の気のせいじゃなきゃ作者の姿が見えるんだが…?」

出久「あーそれね。作者さんが楽しそうな事してるから来たって言うってたよ」

Rime「固いこと言いっこなしだよー」

爆豪「つたく…」

Rime、出久「それじゃあ早速行ってみよう!最初のゲームはく

……王様ゲーム!!」

轟「ベタなの来たな…」

門矢「そうだな」

玉藻「まあいいじゃない。ほら、やるわよー」

「「「「「王様だくれだ!」「」「」「」」」」

リムル「お?俺みたいだな」

出久「リムルさんかー…それじゃ、王様。命令をどうぞ!」

リムル「そうだな…なら3番が14番にハグをするで」

シノン「3番は私ね」

エボルト「14番は俺か」

シノン「行くわよエボルト」

そう言っつて普段通りの冷めた表情でエボルトにハグするシノン  
シノン「やったわよ。次行きましょ」

リムル「この2人に面白いこと期待した俺が馬鹿だった」

出久「まあまあ…次行こ?」

「「「「「王様だくれだ!」「」「」「」」」」

東「お？東さんだねー♪」

出久「次は楽しいさんかあ…それじゃ、王様命令をどうぞー！」

東「なら5番が7番を誘惑ー！」

トガ「え？（5番）」

転弧「おい（7番）」

トガ「あは♡ねえ…転弧♡えちいこと…しよ？」

転弧「おいバカやめろ。」

トガ「あはは〜♪」

出久「そう言うのは自分達の部屋でやってよ…あと、避妊もしてね？」

転弧「おうコラ出久も唆すなや」

出久「はいはいラスト行くよー」

「「「「「王様だ〜れだ！」「「「「「」」」」」」」

紫「あらあら〜私ね〜♪」

出久「お義母さんに渡ったか〜…それじゃ、王様。命令をどうぞー！」

紫「そうね〜…なら2番と9番が5番にそれぞれ愛の告白して5番はどちらかにキチンと返事を返すつて事で〜。因みにマジな方でしないと終わらせないわよ〜？」

轟「……2番は俺だな」

出久「5番は私だね…」

爆豪「で、俺が9番…ぜってえ狙ってやったろ。これ」

紫「さあ？どうかしらね〜♪」

轟「……緑谷。」

出久「は、はい。」

轟「俺は緑谷が好きだ。愛してると言ってもいい。緑谷といると落ち着くし、他の男と話してるのを見ると凄くモヤモヤする。小さい頃から俺や転弧のこと気にかけてくれて嬉しかったけど、ずっと弟みたいな感じで接せられるのは正直いい気分じゃない。これからは恋人

として、緑谷を支えたい。もし良ければ、俺と付き合って下さい」

緑谷「……」

爆豪「おいこらデクこつち見ろ」

緑谷「え？なにかつちや…ん!?」

「「「「おおく…!」」」」

「「「「きやあああああ!」」」」

轟が出久に真剣に自分の気持ちを話したのに対して爆豪はいきなり出久にキスをした。男性陣は驚き、女性陣は黄色い悲鳴を上げた。

出久「ちよ、かつちゃん!?／／／」

爆豪「いちいちまだるっこしいこととしてられるか。俺の気持ちを端的にお前に伝えたただけだ」

出久「え…あ…えつと…／／／」

紫「さあさあ出久ちゃん!決めないとダメよー!」

出久「お義母さんなんか生き生きしてない!?／／／」

紫「気の所為よく♪さあさあ爆豪君達二人は後ろ向いてね♪」

束「さあさあいーちゃん!どつちと付き合うの?!」

出久「う、うう…／／／」

出久は顔を真っ赤にしながらかゆつくりと近づく。そして…

出久「責任とって幸せしてくれなきゃ…許さないから／／／」  
爆豪「当たり前だろ」

出久が選んだのは幼馴染みの爆豪の方でした。

紫「あらあらあらく♪うふふ♪」

束「よーし！今日はパーティーだー！」

Rime「やれやれ…皆は出久と爆豪の恋人記念パーティーで忙しいので私が締めさせてもらいますね。今日はHalloweenと言うことで特別な何かをしたいと思い、前々から悩んでいた出久の恋人の話をここに突っ込んでみました」

「「「「「これからもサモナーの異世界アカデミアを宜しくお願ひします！」「」「」「」「」」

## 結果発表!

〈爆豪 side〉

よお：俺だ。雄英の入試試験が終わって今日で丁度1週間だ。そろそろ結果が出てもおかしくねえと思って郵便受けを見たら案の定雄英からの合否通知が来てたら出久の奴がCONNECTのグループで受けた奴集めて全員で「幻想郷」に来てる。

：あ？デクって呼ばねえのかだと？別に呼び方なんぞ俺の勝手だろ。

「じゃあみんな揃ったし一斉に開けようか」

「普通個人で確認してから来るもんだろコレ」

「まあまあ。いいじゃないですか今日くらい」

「そうですね。それに、こういった機会でも無ければ集まりませんしね」

「：兎に角開けようぜ」

「だな」

そんなわけで袋を開けると小さい円盤型の機械が一個入ってるだけだった。多分ホログラムタイプだろうな。

『私が投影された!』

「オールマイト!」

『諸々手続きに時間がかかって連絡取れなくてね。いやすまない!!』

「二連絡?」

：連絡う？出久にオールマイトが連絡だと？出久の奴なんか隠してんな？まあ後で聞けばいいか：

『この街に来たのは他でも無い。この度雄英に勤めることになってね。』

マジか：

『ええ何だい？巻きで!？彼女には伝えなきゃいけないことが……後がつかえてる？あーあー分かったOK』

出久に伝えなきゃいけない事：ねえ？

「出久」

「な、何かなかつちやん？」

「後で説明してもらおうぞ」

「な、なんのこ」「しらばつくれんなやるぞコラ」…ふあ!?／／／

『緑谷少女！筆記は452／500点！そして実技は92P！歴代ツートップだ！文句無しに合格だぜ！』

『爆豪少年！筆記は468／500点！そして実技は92P！歴代ツートップだ！合格おめでとう！』

『志村少年！筆記は427／500点！そして実技は79P！見事に合格！』

『渡我少女！筆記は432／500点！そして実技は73P！おめでとう！合格だ！』

『アランソン少女！筆記は499／500点！歴代最高得点だ！そして実技は82P！当然合格だ！』

『八百万少女！筆記は486／500点！そして実技は78P！合格おめでとう！』

まあ当然だな。ここに居るやつで心配なのはトガ位で他は心配する程でもねえ

『しかし、先の入試!!見ていたのは敵Pだけにあらず!!人救正しいことけをした人間を排斥するヒーロー科などあってたまるかって話さ!!綺麗事!!上等さ！命を賭して綺麗事実践するお仕事だからね!!』

やっぱりか…もし仮に敵Pだけで合否を決めるようなシステムなら戦闘向きじゃない個性の…それこそトガみたいな奴は受かることが出来ない。最高峰ともあろう雄英がそんなシステムを良しとするわけないしな

『救助活動P!しかも審査制!!我々雄英が見ていたもう一つの基礎能力!!』

『八百万少女!24P!』

『アランソン少女!28P!』

『渡我少女!16P!』

『志村少年!35P!』

『爆豪少年！36P！』

『緑谷少女！65P！彼処で受験者達に説教したのが効いたかな!?緑谷少女の試験会場だけ他に比べて救助活動Pが多いからね!』

『合格だよ八百万少女！さあ来い!』

『合格だよアランソン少女！さあ来いよ!』

『合格だ！渡我少女！さあ来るといい!』

『合格おめでとう志村少年！さあ来るといい!』

『合格！やるじゃないか爆豪少年！さあ来な!』

『合格おめでとう！緑谷少女！私も鼻が高いよ！さあ来い!』

『『『『『雄英が君のヒーローアカデミアだ!!』』』』』

「まあ、心配はしてなかったが…。無事全員受かったな」

「そうですねえ…オールマイトがいずつくんにご執心なのは気になりますけど」

「……………」

出久の奴目エ泳ぎまくってんな…。あれじゃ「秘密があります」って自由してるようなもんだろ…

「さて、出久。説明してもらおうか？何故オールマイトがあんなにお前を気にかけるのかを」

「えーと…それは…そのお…」

「言わねえならお前の恥ずかしいあの写真八百万に見せんぞ」

「止めて！言うから止めて!」

「ならさっさと見え」

「…オールマイトの個性に関する事で、オールマイト自身から箝口令が敷かれてるんだ…だから、言えないことが多い。けど、ひとつ言えるのは、海浜公園の掃除…あれはオールマイトが私に課した試練？の一つみたいなものだったことかな」

「オールマイトの個性…か。どうしても言えねえのか」

「うん。これはいくら恋人のかっちゃんでも教えられない」

「……………はあ。分かったよ…。そこまで言うなら聞かないでや

る」

「ありがと……。あ、後ね？」

「…なんだ？」

「もし言わなかったら……その、本当にやったの？／／／」

「……ノーコメントだ」

「そ、そーなんだ……」

兎に角、これで俺たちは雄英に入学することになった……

これからどんな授業が待ってるのか……楽しみだ。

## 雄英高校で顔合わせ！

↳出久side↳

ついに雄英高校に入学する日が来た…！

合格通知が来てから今日までかっちゃんやシノのんとの組手はもちろん、茅場さんや東さんが研究に集中し過ぎないように時々外に引っ張り出したりと色々してたのもあって、あつという間に過ぎたように感じる。

東さんとエボルトがかっちゃんや百達に何か話してたみたいだけど、詳しくは教えてくれなかった…

「えーと私はA組だね」

「俺もだな」

「私もですわね。と言うより私達全員A組の様です」

私、かっちゃん、トガちゃんに転弧、焦凍にシノのん、シエル、百は全員A組になっていた。てことは4人原作組が消えたのか…なんか申し訳ないけど、これも仕方ないよね。うん。

かっちゃんは先に着いてるみたいだし私たちも早く行かないと

「」「ドアでかッ！」「」

げ、原作で知ってはいたけど改めて見るとホントにドアが大きいなあ…

「異形型個性持ちに配慮した設計だとは思うけど…」

「こんなに大きな異形型個性の方なんてそうそういないと思いますよ…？」

「…：とりあえず入ろっか」

そう言っつて扉を開ける私。するとそこには

「机の上に足をかけるな！先輩方や製作者の方々に申し訳ないと思わないのか！」

「思わねえよてめえ何様のつもりだメガネ野郎コラ」

「」「うわあ…」「」

「かっちゃん…：初日から問題起こさないでえ…」

そこには眼鏡をかけたThe・真面目！な男子生徒とかっちゃんが

言い争いをしていた。かつちゃんは我が道を行くタイプだし真面目な子ことは相性が悪いのは分かってたけどここまでとは…

とりあえずこれ以上は他のクラスメイトにも迷惑がかかるのでかつちゃんと真面目君を宥めることにした

「かつちゃん。机の上に足をかけないの、行儀悪いよ?」

「あ?なんだ出久か。別にいいだろそれく「かつちゃん?」……」

「足…オロソウネ?」

「はい。すみませんでした」

少しドスを効かせて言ったら顔を青くしてちゃんと座ったかつちゃん。そんなに顔青くするくらいなら最初からしなきゃいいのに……

「ごめんね?かつちゃんが迷惑かけて。私は緑谷出久、君の名前は?」  
「む。これはどうも御丁寧に…ぼ、俺は私立聡明中学の飯田天哉だ。よろしく頼む」

「うん、よろしくね。あと、無理に俺って言わなくてもいいと思うよ?」

「ツ…気付くのが早いな」

「まあ、環境柄ね」

「そうやって親睦を深めていると」

「お友達ごっこがしたいなら他所へ行け。此処はヒーロー科だぞ」

教団の横に1-Aの担任である相澤先生が寝袋にくるまっていた。

((((なんか居るう!?!))))

((((芋虫みたい…)))

「はい。静かになるまでに8秒かかりました。君たちは合理性に欠くね…:早速だがこれを着てグラウンドに集合しろ」

「そう言っって寝袋から体操服を取り出しながら指示を出す相澤先生(なんでそんなところに入れてんの?)」

「とりあえず私達は言われた通りにグラウンドに向かうことにした」

クリスマスデート♪十?・α?

♪紫side♪

はろろ。お久しぶりねえみんなのお母さんの紫よろ♪

今日は聖なる一日のクリスマス♪出久やトガちゃんも心做しかソ

ワソワしてるし私も夜はエボルトとクリスマスデートの予定なのよ

♪それはさておき、どうやら出久と勝己君はデートみたいだから様

子を見てみましょうか♪

♪出久side♪

私は今地元にある駅の入口でかつちゃんを待ち合わせをしている

「あ、来た。ねえ…かつちゃん。急にお洒落してこいなんてどうしたの?」

「今日はクリスマスだからな。付き合って1月ちよつとだが恋人らしい事してねえしこの機会にでも思ったんだよ」

そ、そういうえば確かに恋人らしい事してなかった…かな?でもまあ、そういう事なら納得かな

「ならしっかりエスコートしてね?かつちゃん♪」

「まあ、俺もこんなの初めてだから上手く出来るか分かんねえけどな。とりあえず御手をどうぞお姫様」

「よろしくお願ひします。王子様♪」

「……………」

「ふふ…」

「あははは!」

2人して巫山戯あつてるこの瞬間も楽しいなあ…。まさか元男の私が女になって恋人とデートしてるなんて、前世の私が聞いたら失神するかもね

「とりあえず行くか」

そう言って手を繋いで歩き出すかつちゃん。しれつと車道側を歩

いている所も大事にされてる感じがして嬉しいけど、何より歩く速度や飽きないように話題を振るところなんかを見てるとデキる男って感じがして元男としては負けた感があるなあ…

そんな感じで30分くらい歩いて到着したのは映画館。まあ、デートスポットとしては定番だよな

「何見るの？」

「ん？ああ、アレを見る予定だ」

かつちゃんが指さしたのは私が以前見てみたいと言ってた学園青春映画だった。

「かつちゃん。アレって…」

「出久、前にアレ見てみたいって言ってただろ？」

確かに言ってたけど一回言っただくらいだしそこまで覚えてないと思ってたのに…

「出久。ポップコーンとか買うか？」

「あ、うん」

「すみません。ポップコーンのキャラメルと塩ひとつずつで、飲み物は烏龍茶とコーラで」

ポップとしていている間にかつちゃんがポップコーンとも飲み物を買ってしまった。

「ありがとうかつちゃん。私の分は払うよ」

「デートの時の金くらい俺に払わせろ」

「う、うん…」

…かつちゃんてこんなにカツコよかったっけ？

~~~~~

「中々悪くなかったな。出久はどうだ？」

「え？あ〜…うん。よかったよ？」

「なんで疑問形なんだよ」

い、言えない…かつちゃんの横顔チラチラ見てて映画の内容が頭に

入ってこなかったなんて…

「それじゃ昼飯どうする?」

「ファミレスとかでいいと思うけど…」

「まあ、まだ学生だしな。そうするか…」

そうして私とかつちゃんは今近くのファミレスに入る。シツクな雰囲気です。落ち着く店内を見ているとあるモノを見つけた。

「部長。ここ何処なんでしょう…」

「みりあ達のリアル住所を調べて見ても一つもヒットしないし…」

「僕達の一人称とかもいつの間にか部活のものになってますし」

「うーん…さつきネットニュースに『ヒーロー』とか『ヴァイラン』って出てたし…まさかとは思うけど…」

「…『僕のヒーローアカデミアの…世界?』」

そこには前世である一定の時期まで欠かさず見ていたとあるVtuber達がそのままの姿で座っていた。

ブロンド色の髪の高校生にしては豊満な身体を持ち、鮮やかな赤橙色の目をしている女性『夢咲楓』

黒髪に白いメッシュの入った自信に溢れていそうな顔と意外としっかりした服装をしている黒紫色の目をした男性『道明寺晴翔』

ピンクの髪にゲームの十字キー型のペンダントをかけたひんげフンゲフン慎まじやかな体型の檸檬色の目をした女性『桜木みりあ』

銀髪に黒いヘアピンをつけ、庇護欲を誘う容姿をした若草色の目をした男の娘『風見涼』

そう。声優変更問題によって大きくチャンネル登録者数を減らした『ゲーム部プロジェクト』の面々がそこにはいたのだ。私が何も言えずに固まっていると

「出久。あの4人組がどうかしたか?」

「え?あ、いや、その…」

「……お前の前世に関係があるのか?」

「ツ!?な、何でそれを…?」

「束さん達から聞いたよ。…心配しなくても出久は出久だ。前世がどうとか関係ねえよ」

「うん…」

「で？あの4人組がどうかしたのか？」

「うん。前世で結構人気があったV t u b e r って言って…画面の向こうの存在だったんだよ」

「で？その画面の向こう存在がなんで現実に出てんだ？喚びだしたのか？」

「喚んだ覚えがないから…」

「……とりあえず話を聞いてみるか」

「いいの？デートは」

「流石に今の出久の状態でデートしても楽しくねえよ」

「なんか…申し訳ないなあ…」

「すみません。少しいいですか？」

「…「え？」」

「俺は爆豪勝己と言います。何やら困ってたみたいなので…。あつちは俺の彼女の緑谷出久です」

「ど、どうも…」

「…「…」」

「あ、驚きすぎて固まってる。そりやそうだよね自分達の中では物語の中でしか存在しなかった存在が目の前にいたら」

「えっと…とりあえず何か頼みませんか？」

「……あ、でも私達お金持ってないから」

「ジューズくらい奢りますよ」

「で、でもみりあ達お返し出来るものが何も無いし…」

「……なら、出久のストレス発散の相手になってください。出久が貴方たち4人と同じ世界に生きてたらしいんです」

「…「え？」」

「……声優変更問題」

「…「ツ！」」

「……まあ、ここでは何ですし私の家で話しませんか？」

「どうしますか部長…」

「原作では出久君はいい人でしたけど、この世界だと性別が違いますし、用心した方がいいんじゃないかと思えますけど…」

「……行こう。このまま此処で考えてても埒が明かないからね」「決まりましたか？」

まあ、ちよこちよこ聞こえてたけど…

「それじゃあ、お願いします」

こうして喚んだ記憶のないゲーム部の4人を連れて私は帰宅した。でも、本当にいつ喚びだしたんだろう……？

事情説明！

↳ 出久 side

私達はファミレスで出会ったゲーム部の4人を連れて自宅に招き、事情を聞いていた。

「……なるほど。仕事の打ち合わせが終わって4人揃って会社のドアから出たらゲーム部の姿で路地裏にいた……。周りの人に聞いても自分達を知っている様子はなく、スマホでネットニュースなんかを見て小会議をしていた所に私達が来た……。これで合ってますか？」

「うん、合ってるよ……。それにしてもビックリしたよ。君が憑依転生^性者で私たちと同じ世界の出身なんて……。それに強い個性もあるみたいだし」

「強すぎてその分代償も大きいですけどね」

「俺たちにも個性はあるのか？」

「ありますよ」

「え!?! どんなの!?! 知りたいたい!!」

「夢咲さ」名前がいいよ。この世界では同い年みたいだしね……。楓さんはゲームマスター。自分がゲームと認識したものに對する最上位支配権の獲得。具体的に言えばフィールド支配能力やバフデバフの自由な付与。多種多様な戦闘スキルや武具との巡り合い。ただしゲームと認識出来ないと効果が発揮しない上に、ゲーム以外では普通の人のままだから不意打ちなんかされたら直ぐに死んでしまう」

晴翔君はシューティングスター。射撃武器に對する適正の極大補正。具体的に言えば銃を撃った時の反動を無視したり、狙った場所に正確に命中させたりといった射撃スキルの強化や、高性能な銃に巡り会い易くなったりといった感じ。デメリットは近接戦闘スキルが壊滅的に……。とまでは行かなくてもかなり稚拙になること

みりあちゃんはホラートレーナー。『恐怖』を操ることの出来る個性。人々が『恐怖』を抱くものを自由に操れるから単純にお化けで囲むだけだったり相手のトラウマを想起させて行動を制限させたりと

汎用性が高い個性。これと言って大きなデメリットはないかな

涼君のはファイター。晴翔のシューティングスターを近接戦闘に変えた様なものかな。デメリットもシューティングスターの逆って感じ」

こうして見ると実況してたものに由来してるのなあ：楓さんはなんか違う感じするけど…

「でも何で私達に個性が発現したのかな？」

「それは簡単ですよ。転移や転生した時に普通の人間のまじや個性持ちに簡単に殺されちゃうからです。」

この世界の住人は私たちの元いた世界基準で言えば無個性でもオリンピック選手並のポテンシャルは持ってますからね。世界が違えば理も法則も違いますから」

これは私も驚いた事なんだけどね。無個性だと馬鹿にされてた原作の出久君でさえ鍛えればオリンピックで金メダルを狙えるだけのポテンシャルがあったらしい。まあ、当然鍛えなきや普通 능력의 ままで

「それで、楓さん達はこれからどうしますか？東姉に頼んで戸籍諸々は用意してもらいますけど、住む場所や通う学校なんかは楓さん達が決めてください」

「私は……迷惑じゃ無ければ出久ちゃんと一緒に居たいかな。この世界で唯一私達の前世を含めた秘密を知っている存在は貴重だし、生活する分には他の所でも困らないだろうけど、少なからずストレスが溜まるからね」

「俺も部長に賛成だ。右も左も分からない世界で4人：最悪一人で過ごすのはリスクが高すぎる」

「僕も賛成かな。近くで過ごせばストレスもほとんど溜まらないだろうし、個性の練習も見てもらえるかもだし」

「みりあはイズちゃんと楓ちゃんとかでガールズトークとかしてみたいし、ヒロアカのメインキャラにも会えそうだから一緒に住みたいかな」

まあ、前世で置き換えるなら無人島でサバイバルするか感性の違い

国にいる同郷の人と一緒に暮らすか位の差だし、普通は後者を選ぶよね

「分かりました。ただ、雄英高校の願書受付はもう終わっているので別の高校にしてもらう必要はありますけど…」

「そこは仕方ないよね」

「とりあえずは生活基盤を整える所からですね。部屋なんかは用意して貰えそうですけど、他の日用雑貨は自分達で買い揃えなきゃいけないでしょうし」

「僕とハル君は性別自体変わっちゃってるから体の調子も確認しないといけないからかなりやること多いですよ？」

「とりあえずみりあ達4人の役割を決めて生活基盤をしっかりとっていただくのが第1だよね」

4人は集まって色々話し合いを始めたみたい。これから賑やかになるだろうなあ…

やれやれ、忙しくなりそうだ

個性把握テスト!!

↳出久side

「個性把握テストお!!?」

「入学式は!? ガイダンスは?!」

「ヒーローになるならそんな悠長なものに出てる暇はないよ」

グラウンドに集合した私達に伝えられたのは担任の相澤先生による『個性把握テスト』の実施だった。個性把握テストとはその名の通り自分の個性で出来ることが何なのか、それがどれだけの効果があるのかを簡単にだが把握する為のもののだ。雄英高校の校風は「自由」それは生徒にも教師にも適応されるそうで、受けない事も出来るが相澤先生の事だから受けない人はすぐ除籍にしそうだなあ……

「入試トップの……あー、緑谷。お前中学の時のハンドボール投げ何mだった」

今私かシエルで迷ったな絶対……

「108mですけど」

「……個性は「使ってません」そうか」

そりゃ、ハンターの身体能力+オラクル細胞+ハザードレベル3以上だからどれだけ抑えても100は超えるのよね……

「ならこの枠の中から個性使って投げろ。枠の中から出なきや何してもいい」

何してもいい……ね。ならお言葉に甘えて全力でやりますか

「分かりました。焦凍と百は被害を抑えられるだけ抑えといてね」

「ああ、分かった」 「承知しましたわ」

さて、やりますか。身体能力100%解放、オラクル細胞励起率100%及び喚起率100%、ハザードレベル6。2全開、ワン・フォー・オールフルカウル50%、スキルインストール『剛力』『投擲』『飛距離UP』

そしてもちろん……

「エゴルドライバー!」

そして更に……茶色のゴリラの意匠の施された『ゴリラエゴルドボト

ル』を取り出して装填

『GORILLA!』 『Rider System!』

『Evolution!!』

『Are you ready?』

「変身」

『GORILLA……GORILLA……EVOLGORILLA
!!フツハツハツハツハツ!!』

『EVOL……phaseβ』

『ReadyGo!!』

パワー特化のエボルゴリラに変身する。準備は整った。後はレバーを回してパワーを右手に集め、ボールを軽く上に投げて落ちてきたところを…!

「チエエエエストオオオオオオオオオ!!」

『Ciao〜♪』

そのまま思いつきりぶん殴る!!!

私が殴ったことでまるで地球がぶつかっただかのような衝撃を受けた測定用のボールは一瞬で見えなくなり辺りにはそれに伴う衝撃波が吹き荒れる。だが、焦凍と百がオラクル細胞によって強化された対アラガミ装甲壁や氷壁によって限界まで耐えたことにより、転倒して軽い怪我こそしたものの全員が無事だった。

「「「「「……………」」」」」」

「……緑谷」

「はい。何ですか?」

「お前は学生生活してる間は全力を出すな。いずれ死傷者がでそうで怖い。出すにしても俺か他の教師の許可を得てからだ」

「分かりました。ところで先生、記録は?」

「……これだ」

まあ、流石にとんでもない距離はでてないと思うけど…

そしてそこには『17868m』と出ていた

「17000オーバー!?!」

さて、やりますか!!!

第1種目：50m走

スキルインストール『神速』

「記録：0秒21」

うーん…やり過ぎたかな？

「爆速ターボ!!」

「記録：3秒86」

「もつと上げれんな」

あ、かつちゃん原作よりも速くなってる…

第2種目：握力

メキョツ

「すみません先生。壊れました」

「それ一応1tまで測れる奴だぞ…まあいい。測定不能にしとけ」

まあ、仮面ライダーは基本1t超えてるしね。ハンターの身体能力とオラクル細胞だけでもそりゃ超えるか…

その後も立ち幅跳びや反復横跳び、ボール投げ（これは先生から投げるなって言われたけど）など色々やった。そのどれもが私がトップだったけどね。そして…

「んじゃパパと結果発表だ。トータルは単純に各種目の評点を合計した数だ。口頭で説明すんのは時間の無駄なので一括開示する

因みに除籍はウソな」

「「「「「?!?!?!」」」」」

「君らの最大限を引き出すための合理的虚偽」

「「「「「はあああああああああ?!?!?!」」」」」

どうやら、全員見込みありと評価されたみたいね…峰田とか結構怪しかったけど

「そゆこと。これにて終わりだ教室にカリキュラム等の書類があるから目エ通しとけよ」

とりあえず第1関門は突破かな…。後はこのクラスメイトと切磋琢磨しつつ敵連合に備えなきや……